こしがやSDGsパートナー交流イベント～脱炭素経営について考えよう～

報告書

実施日：令和7年7月8日（火）

内容

開催日時：令和7年7月8日（火）18時～20時
場所：中央市民会館 第13～15会議室

参加者一覧

以下の企業等8組11名、登録前の企業4組6名、一般の参加者2名の計19名の参加となりました。

- 44. 株式会社ACTIONSPORTS
- 47. 株式会社イハシ（イハシグループ）
- 103. 株式会社 神谷サンプラス
- 131. 積水ハウス株式会社 埼玉東シャーマゾン支店
- 172. 東京東信用金庫 大袋支店
- 181. 株式会社 アミカテラ
- 186. 中村建設
- 187. 花王グループカスタマーマーケティング株式会社
ビジネス開発部門関越地区

プログラム

1. 越谷市の取組について
2. 基調講演
 - ①「脱炭素経営に向けた地域金融機関の取組み」
講師：埼玉りそな銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室
室長 鈴木 学 氏
 - ②「見える化から始めるGX経営」
～排出量とコストを同時に可視化することの重要性～
講師：SCSK株式会社 GXセンター 顧問 高橋 壮模 氏
3. 意見交換

こしがやSDGsパートナー交流イベント～脱炭素経営について考えよう～

報告書

実施日：令和7年7月8日（火）

1. 越谷市の取組

越谷市で取り組んでいる脱炭素に関する取組、こしがやSDGsパートナーに関する取組についてご紹介しました。

【主な内容】

- ・越谷市環境管理計画
- ・「ゼロカーボンシティ」共同宣言～2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指して～
- ・こしがや脱炭素コンソーシアム
- ・越谷市ゼロカーボン推進補助金
- ・越谷市省エネ家電買換促進補助金
- ・こしがや・おがの交流の森の森林整備
- ・こしがやSDGsパートナー

小・中学校で実施している環境学習の際にこしがやSDGsパートナーのみなさんの取り組みについて紹介しています。▼

越谷市の取組

こしがや脱炭素コンソーシアム

【目的】

越谷市の2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、市域で活動する多様な企業及び団体等の積極参加や相互連携を図り、2030年市域からの温室効果ガス排出量46%以上削減（2013年度比）と環境面から社会・経済課題の同時解決を図ること

会長：
株式会社イハシ
井橋 英蔵 代表取締役

▲参加者一覧（五十音順）

AZ-COM丸和ホールディングス株式会社、イオンモール株式会社、株式会社イハシ、越谷市、コスモエネルギーソリューションズ株式会社、株式会社埼玉りそな銀行越谷支店、国立大学法人東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻地域循環共生システム研究室、東日本電信電話株式会社埼玉南支店、株式会社FOMM、ポラス株式会社、レイクアンドビース株式会社

アドバイザー：環境省関東地方環境事務所、埼玉県環境部温暖化対策課

越谷市の取組

こしがやSDGsパートナーの紹介

SDGsってなんだろう？

こしがやSDGsパートナー交流イベント～脱炭素経営について考えよう～

報告書

実施日：令和7年7月8日（火）

2. 基調講演

①「脱炭素経営に向けた地域金融機関の取組み」

講師：埼玉りそな銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室 室長 鈴木 学 氏

「SDGsとは」というお話や「脱炭素経営に向けた地域金融機関の取組み」についてご講演いただきました。

世界の貧困や子どもたちの厳しい現実、気候変動や海洋プラスチックなどの環境問題についてお話いただき、一見“脱炭素”とは直接関係なさそうなゴールも、つながっていることが再認識できました。

脱炭素経営については、金融機関として把握されている世界の流れや、多くの取引先の現状などについてお話がありました。

脱炭素経営を目指すとしてもどこから手をつけていいのか、何を行えばいいのかわからないという声もたくさん聞かれます。

そんな中で、ステップごとに分けることで“現在地を知ることができる”というお話がありました。

自分の会社だけで脱炭素経営を目指す必要はなく、知見のあるパートナーと一緒に目指すこともできると教えていただきました。

こしがやSDGsパートナー交流イベント～脱炭素経営について考えよう～

報告書

実施日：令和7年7月8日（火）

2. 基調講演

②「見える化から始めるGX経営」～排出量とコストを同時に可視化することの重要性～

講師：SCSK株式会社 GXセンター 顧問 高橋 壮模 氏

「脱炭素経営の重要性」と「実践的なアプローチ」についてご講演いただきました。企業を取り巻く脱炭素活動の動向などについて、ご自身の経験を踏まえたお話をいただきました。また、光熱費などの固定費は1度見直せばその後もずっと削減できるので、二酸化炭素の削減とコストの削減は両立できる、というお話が印象的でした。二酸化炭素の削減のためには、まずどのくらい削減の余力があるのか、など「見える化」して現状を把握することが重要とのことでした。見える化するための手法はいろいろありますが、専門的知見を有する機関に相談することも一つの有効な手段であると教えていただきました。

「見える化から始めるGX経営」
～排出量とコストを同時に可視化することの重要性～

2025年7月8日

SCSK株式会社
GXセンター
顧問
(元コニカミルタ サステナビリティ担当 執行役員)
高橋壮模

商号	SCSK株式会社
設立	1969年10月25日
資本金	21,562百万円
売上高	596,065百万円(2025年3月期 連結)
従業員数	20,252名(2025年3月31日現在 連結)
本社所在地	東京都江東区豊洲

Copyright © SCSK Corporation

あそび、ITの可能性。SCSK

夢ある未来を、共に創る。
お客様の心を理解し、共に新たな価値を創出し、夢ある未来を築きます。

あそびの楽しさを伝える

- 人を大切にします。
一人ひとりの個性や才能を尊重し、思いの力を最大限に引き出します。
- 確かな技術に基づく、最高のサービスを提供します。
最新の技術と人財を駆使し、お客様の課題から最適なソリューションを提供します。
- 世界と未来を育み、成長し続けます。
グローバルなネットワークの構築にも注力し、世界へ成長の機会を提供します。

こしがやSDGsパートナー交流イベント～脱炭素経営について考えよう～

報告書

実施日：令和7年7月8日（火）

5. 意見交換

基調講演後、意見交換を実施しました。
企業として参加いただいた方から各社1人ずつ発表いただきました。

- ・ 自社の現状
- ・ 今後の決意
- ・ 講師への追加の質問
- ・ 講演の感想

など、さまざまな意見を聞くことができました。
中には講師の方も感心してしまうような鋭い質問もあり、
講演内容をより深めることができました。

発表することで、より「自分ごと」と感じていただけた様子でした。